

単元「きいて、きいて、きいてみよう」(6/6)

1 今までの学習

聞き手・話し手・記録者の立場に立って、役割交代しながらインタビューをしてきた。そして、報告を聞く人を加えた4つの立場について最後まとめをするのが本時である。

2 実践の様子



①インタビュー活動を通して、4つの立場があったことを確認した。



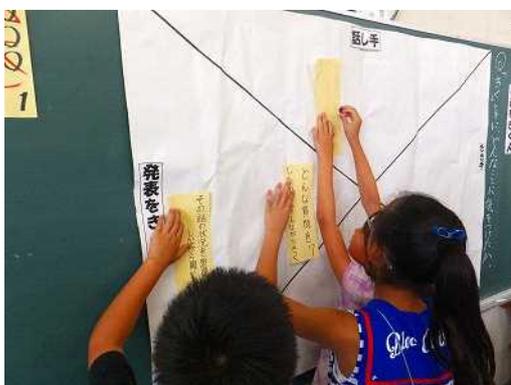
②言葉の広場はびっしりまとめられ、今日の学習の準備が整っていた。



③4つの立場の注意点が書かれた付箋をXチャートに貼っていった。



④全体への掲示は、各班1つの立場にしぼるよう指示が与えられた。



⑤黒板に見やすいように短冊に書き直し貼っていった。



⑥この黒板用Xチャートを見て、何度も出てくるキーワード探しを行った。



⑦キーワードをもとに最後のまとめを行った。

出てきたキーワード

【目を見る うなずく 相手 理解 共感】

※これらのキーワードをもとに夏休みの取材に出かけることを確認して授業は終わった。

3 授業者の反省

- ・児童が大変がんばってくれた。ノートも付箋もよくまとめられていた。
- ・Xチャートがもっと見やすくなる工夫をアドバイスいただきたい。
- ・取材活動に向けての今回の授業は、児童等にとって実践力につながっただろうか。
- ・共通していることに注目させたのは効果的だったかについて教えていただきたい。

4 参観者の声

(1) 国語とESDとの連携効果について

- ・児童等が出した短冊からキーワードを抽出した内容が、夏休みの取材活動に生かせることばかりであり、自信と意欲につながったと思う。
- ・今後の取材活動における「きいて」学ぶことへつながる授業だった。
- ・5年生はもう一つ「敬語」についても学習しており、今回の単元と合わせて取材のコミュニケーション力が増すと感じた。

(2) Xチャートの活用について

- ・1つの項目に絞って短冊を貼らせたアイデアは、Xチャートを見やすくする1つのアイデアである。
- ・Xチャートを分析する方法として、「何度も出てくる言葉に注目する」という手法は、認識を高めるのに効果的である。

(3) 授業改善のアイデア

- ・同じ色の付箋紙だったので、色分けした方がよかった。
- ・黒板上でも似た意見は重ねていくようにするともっとすっきりしたのではないかな。
- ・付箋や短冊に書く量を減らすと、もっとキーワードが発見しやすくなった。
- ・グループ内で自分たちのXチャートを使い、共通するキーワードを探させた方が、話し合いに深みが出たかもしれない。
- ・キーワード探しには、違う色のペンを使うと分かりやすかった。

5 今後の児童への期待

- ・取材活動では、取材相手に好感をもってもらえたら合格である。
- ・目を見る、うなずきながら共感しながら聞くという「傾聴」という姿勢を大切にしたい。
- ・取材では教師がそばにいるが、教師のアドバイスが少ないインタビューであれば合格である。